

抹茶

渡辺加奈

(2019 年度入学 鈴木ゼミ 3 期生)

新型コロナウイルス流行から 2 年たった今、「with コロナ」という新しい時代へと移り変わっている。その中で行動制限により減っていた、旅行をする人が増えてきたと感じる。京都のお土産といえば抹茶スイーツで、お茶は輸入文化であるのに京都は抹茶というイメージが浸透したのかを疑問に思い、調査することにした。

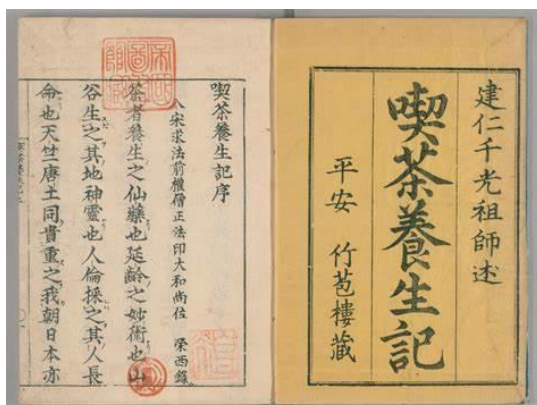
1 抹茶の起源

お茶の起源は日本ではなく、中国にある。農業・漢方の祖とされる「神農」が野草とお茶の葉を食べていたという逸話から紀元前 2700 年頃にはお茶が存在したとされる。漢の時代（紀元前 1 世紀）に四川の王褒（おうほう）によって書かれた、主人と奴隷との間で交わされる契約分『僮約（どうやく）』の中に、「武陽に茶（と）を買いに行く」とあり、茶具に関する最初の文献とされている。ここから、漢の時代には飲茶や売買が行われており、主に上流階級に親しまれていたと思われる。唐の時代（618 年-907 年）になると、お茶を飲む慣習は全国に広がり、陸羽によって世界最古のお茶の本といわれる『茶経』が記された。



2 お茶の伝来

日本が中国の進んだ制度や文化を学び、日本の発展に役立てようと派遣した遣唐使や留学僧たちがお茶の種子を持ち帰ったことによって伝来した。遣唐使の最澄は持ち帰ってきたお茶の種を比叡山の日吉神社に植え、同じく空海も茶の種や石臼を持ち帰り、比叡山に植えた。非常に貴重であったため、貴族などの限られた身分の人のみが口にすることができ、医療品などとして用いられた。また、この頃の茶法は餅茶であった。しかし、一般の人が利用できないことや遣唐使の廃止といったことからお茶の栽培は衰退していく。その後、鎌倉時代になると、日本の臨済宗の開祖である栄西が宋から茶の種を持ち帰り、茶の粉末を湯の中に入れてかき混ぜ



る抹茶法を伝えた。そして、栄西は 1211 年に日本最古の茶の専門書『喫茶養生記』を著す。『喫茶養生記』は陸羽の『茶経』をもとに薬の薬効を仏教に関連付けて、栽培から製茶、貯蔵、飲用、効能までが記され、日本でお茶を飲む習慣を根付かせた。その後、明恵上人が栄西から譲り受けた茶の実を京都の栴尾にある高山寺や宇治でお茶の栽培を始めたため、この地域が日本最古のお茶の栽培地と言われる。そして、京都といえば抹茶と連想されるようになったのだろう。

3 日本での発展

室町時代になると、3 代将軍の足利義満は宇治に御用茶園の「宇治七名園」を誕生させた。また、山政小山園の HP によると、「宇治は京の都に近いうえに、宇治の川霧といわれる霧や温暖な気候が茶の栽培に適した土地」とあり、宇治が茶の本場となったのだと考えられる。

華やかな北山文化の時代であったため、中国の美術品を飾った座敷でお茶を楽しむという娯楽的な要素の強いものとなった。

安土桃山時代になると、千利休らは佗茶（茶の湯）という新しいお茶のスタイルを大成させた。佗茶は室町時代の豪華なスタイルに対して、禅の精神や質素さを取り入れたもので、現在の日本の伝統として受け継がれている。茶の湯が戦国武将たちに庇護されたのは有名な話だ。気の休まらない武将たちが休息を求めた精神統一に容易な簡素さや京都の景観や文化保護の姿勢が、京都に抹茶のイメージを持つ要因だと考える。江戸時代になると、宇治田原の永谷宗円が「宇治製法」という緑色で甘みや香りの良い煎茶の作り方を生み出し、江戸っ子の間で人気になり日本全国でお茶が親しまれるようになる。江戸後期には、山本嘉兵衛によって覆下栽培を煎茶に応用して作られた玉露という高価な煎茶も生み出された。その後、大正末期から昭和初期にかけてお茶は日本人の生活に根付いた。



4 抹茶のスイーツ化

では、いつから抹茶はスイーツ中で定番化していったのだろうか。抹茶スイーツの始まりについては諸説あるが、「茶游堂」を紹介する。昭和 60 年ごろのお茶は急須で淹れて飲むものだと決まっていた。しかし、茶葉の量やお湯の温度でかなり風味が変わり、淹れる度にも風味の差が出てしまうため、茶の製造元がどんなに美味しいお茶を作り出しても、お茶を淹れる各自の技量差で美味しくもまずくもなり、一体どのくらいの人か美味しく飲めているのか疑問に思っていたそうだ。すると、1985 年に伊藤園が「缶入り

煎茶」という商品を発売した。お茶屋の多くは本当に美味しいお茶ではないと反応していたが、それとは反対に便利で同じ味で飲むことができるお茶の缶ドリンクは短期間で普及していった。そこで、茶游堂の林屋和成は宇治茶文化の未来を守るために、別の形でお茶の美味しさ最大限に引き出し、みんなが同じように味わうことのできる抹茶スイーツの「抹茶トリュフチョコレート」を開発した。当初、周囲のお茶屋やバイヤーからの反応は良いものではなかったが、商品は飛ぶように売れ、翌年からはバレンタインデーやブライダルなどに展開していった。1996 年になるとハーゲンダッツ社が発売した抹茶味のアイスが人気を博し、2001 年にはスターバックスが抹茶クリームフラペチーノの発売を開始し、抹茶味がスイーツの定番として定着していった。



現在、世界では「sushi」のように「matcha」と日本語で通じるほど、お茶や抹茶は日本のものであると有名だ。お茶の歴史や普及、スイーツへの変身を調査するうちに、抹茶は異国から取り入れた文化を日本らしいものにリメイクした代表作だと感じた。

〈参考文献〉

- ・ 伊藤園 <http://www.ocha.tv/history/>（最終閲覧日 2022 年 8 月 9 日）
- ・ お茶（緑茶・日本茶）とともに～お茶の歴史～ <http://www.japanese-greentea.net/dictionary/history05.html>（最終閲覧日 2022 年 8 月 9 日）
- ・ 宇治小山園 <https://www.yamamasa-koyamaen.co.jp/matcha/basic/matcha-history.html>（最終閲覧日 2022 年 8 月 9 日）
- ・ 世界緑茶協会 <https://www.o-cha.net/teacha/bunka/chanoyu.html>（最終閲覧日 2022 年 8 月 9 日）
- ・ 茶游堂 <https://www.chayudo.co.jp/contents/category/idea/>（最終閲覧日 2022 年 8 月 9 日）
- ・ PATISSIENT <https://www.patissant.com/magazine/3824/>（最終閲覧日 2022 年 8 月 9 日）